

2013年度「視点」 塾生出品写真から

憲法改正が気軽に、かつ堂々と主張されている。メディアは騒ぎをでっちあげ、政治をとり仕切り、核汚染から眼を背けさせることに専念している。それほどまでにこの国、この社会の現況は屈辱的、危機的なものとなっている。危機とは見る眼の衰弱、見る眼が死の瀬戸際にあるということだと思ふ。この20年ほどは写真の眼は現実や状況に無縁であるように振舞うことが推奨されてきた。その結果が現在であるともいえるのではないか。

このようなとき「写真で何が出来るか」と問うのは、写真を政治的主張、状況を解明する手段と考えているとみなされかねないにしても、いまこそ塾は、写真とは何か、私は何をみたか、私は何を写したかをしっかりと見ること、考えぬくことによって、この時代に写真人として生きる力をつける場にしたいと思う。

(記：金瀬+中西)

講座内容

- ・ 月一回（第四日曜日）午後1時より、名古屋と京都で交互に開催
- ・ それぞれの写真やこの時代の写真作品を見ながら、その写真を読み、理解し、そこから何かを発見する力をつけていきます
- ・ 写真を選び、並べるレッスンを重ね、それぞれの写真のテーマが見えるようにしていきます
- ・ 写真展の構成、写真集の編集などの作業を行い、写真発表の方法を研究し、写真の力を養います

講師：金瀬胖、中西篤行

塾費：年間 50,000円

(申込書送付先)

JRP事務局：FAX03-3355-1462 e-mail: jrp@jrp.gr.jp Tel. 03-3355-1461
〒160-0004 東京都新宿区四谷3-12 沢登ビル 6F

(問い合わせ)

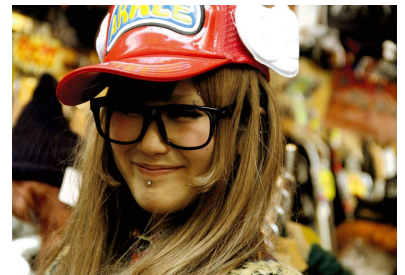
浅見裕子(岐阜支部)、玉井敏夫(京都支部)、金瀬胖(講師)、中西篤行(講師)



木野玉枝「なっちゃんの手術から5年『みんなで走れたね』より



広幡紀美子「マイライフ」より



加藤弘子「ショッピング・モール」より



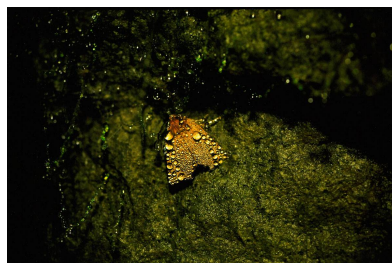
廣田和雄「日曜カメラ散歩」より



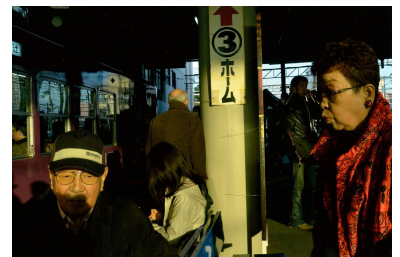
深田美保子「祖父の納戸」より



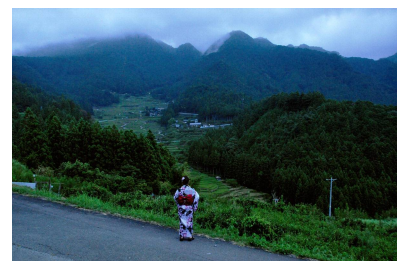
花村隆「朝のバス停 スリランカ」



前野麗子「哀しみの豪(松代大本宮)」より



玉井敏夫「太秦光影(うずまさこうえい)」より



塩谷榮一「はねこみ」より



藤村諭香「ようこそ、れいくん」より

2013年度 近畿・東海塾 参加申込書

近畿・東海塾への参加を申し込みます

(氏名) (所属) 支部 個人会員

(連絡先)